

**令和7年度
地域循環共生圏づくり支援体制構築事業
実施計画書（継続団体用）**

活動団体の本事業での活動テーマ

『山・海・里・食・農から生まれるサステイナブル・ツーリズム・ビレッジしらやま』

活動団体の活動地域：福井県丹南地域

活動団体名：エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま

中間支援主体名：合同会社ローカルSDクリエーション

参加団体の基本情報

（１）活動団体の基本情報

団体名	エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま
活動地域	福井県丹南地域
専門性・強み	
# 豊かな自然環境 # 里地里山・里海 # 農業体験 # 自然体験 # 農家レストラン # 農家民宿	

団体概要
【目的】 福井県越前市白山地区内に存在する美しい自然、伝統文化、伝統産業や多様な農林業生産活動を活かした農山村滞在型余暇活動の推進を通して、地域の農林業や伝統産業の振興と活性化を図る。
【活動内容】 ・農山村における体験アクティビティの企画・運営 ・キャンプ場の運営（太陽広場） ・農産物や地域物産の販売等

（２）中間支援主体の基本情報

団体名	合同会社ローカルSDクリエーション
活動地域	福井県丹南地域
専門性・強み	
# 自然環境保全、# 地域づくり、# 情報発信、# 伴走支援、 # 連携構築、# 行政連携	

団体概要
設立：2020年4月
自然環境を基軸に地域の資源を発掘・創造・活用し地域の持続的発展（Local sustainability development）の創造を目指す。

活動団体と地域の紹介

エコ・グリーンツーリズム 水の里しらやま

(平成28年3月設立)

福井県越前市しらやま地区の豊かな自然環境と歴史・文化を守り続け
持続可能な集落づくりを進めていく上で
都市住民との交流による保全活動や販路拡大などは
地域活性化に不可欠です。

田舎ならではの農業体験や自然体験ができる農家民泊などを通して、
都市住民との通年的な交流を図ります。

- ★「ディスカバー農山漁村の宝」優良事例選定14地区受賞(平成29年北陸農政局)
- ★「水の里の旅コンテスト2020」奨励賞受賞(令和2年国土交通省)

活動団体の目指す地域の姿

■ 地域循環共生圏の構築を通じてありたい地域の姿

自然環境をはじめとした地域資源を活用し、地域の需要に適合した様々な観光コンテンツが開発され、地域外の人々との交流を通じ経済循環が生まれ、豊かな自然環境と農林水産業が守られる持続可能かつ発展性のある観光地域。

■ 地域に必要なプラットフォームの体制や仕組み

観光需要を活用し、都市住民との交流による里地里山・里海の保全体験を企画運営するプラットフォーム。

■ ローカルSDGs事業として取り組む内容

- ① 農山村における体験アクティビティの企画・運営
- ② 地域の観光ブランド戦略の策定
- ③ 地域のゲートウェイ（ハブ）機能を持つ中核拠点の拡充

■ 地域の現状と課題

【現状】

2023年度末、北陸新幹線敦賀延伸により福井県を訪れる観光客のうち、自然目的は第3位（R2年度）であった。地域の自然や農産物などの資源を活用し、持続可能な観光地域を作るため、ブランディングワークショップを通じ、地域住民への地域資源の認識と地域への誇りを醸成し、新たな体験コンテンツを企画し運営を行っている。

【課題】

- ・ 取組みや地域ブランドの地元への広がりや地域外の人を感じる地域資源の価値の認識
- ・ 二次交通の確立または代替手段の検討
- ・ 収益活動と地域活動の認識を明確化

現時点のマングラ

越前市

●地域自治振興事業 (条例 平成16年)

越前市は、地区住民が自ら地区の将来像を考え、その実現に向けて地区住民自らが取り組む「住民主体のまちづくり」を実現するために、各地区に振興会を設け、地区内の意見や課題を幅広く収集し、地区民の総意を持って事業の検討や地域自治振興（まちづくり）計画の策定を行っている。

●コウノトリが舞う里づくり構想 (平成23年3月)

越前市はコウノトリを生物多様性や自然再生のシンボルとして位置づけ、里地里山の自然環境と生物多様性の保全再生を行い、持続可能な社会づくりを通じて、「生きものと共生する越前市」を目指している。

里地里山の保全活動、環境調和型農業の推進、環境学習などを通じた学びあいの推進。

しらやま振興会

(平成16年2月28日)

- ・ふるさとふれあい部 ・福祉健康部 ・自然環境部 (いきいき里山部)
- ・しらやまっ子育成部 ・防災安全部 ・広報部・施設運営部

- ①コウノトリが舞い降りる里作りによる自然環境の保全とそれを支える人づくり
- ②若者が住みたくなる地域づくり
- ③心も身体も健康なしらやまっ子をそだてるまちづくり
- ④地区民全員参加の安全・安心な地域づくり
- ⑤都市居住者との交流とU！【結い】ターンの促進

越前しらやま活性化協議会 (平成25年～現在)

農林水産省交付金
平成25～27年度13,628千円

里地里山の豊かな自然や食を活かした魅力あるコンテンツ開発事業等に取り組み、交流体験、商品サービス等を通して、「ふるさとしらやま」と「消費者の絆」を深め、豊かな農村コミュニティを形成し、地域活性化を図ることを目的に発足。

- ・地域資源の調査、評価（自然条件・気候・土質・水質及び人口動態）
- ・都市部の消費者との交流
- ・交流プログラムの研究開発等々
- ・しらやまブランド品の認証、周知、市場拡大

しらやまブランド 認証制度

- ・しらやま西瓜 ・白山だいこん ・越前しらやま豚
- ・純米吟醸酒「かたかた」 ・しらやま漬け ・そば粉

地区区長会

公民館

各種団体等

エコ・グリーンツーリズム【水の里しらやま】

(平成28年3月)

しらやま地区の豊かな自然環境と歴史・文化を守り続け、持続可能な集落づくりを進めていく上で、都市住民との交流による保全活動や販路拡大などは、地域活性化に不可欠であるため、田舎ならではの農業体験や自然体験ができる農家民宿などを通して、都市住民との通年的な交流を図る。

- ◎ 広報班・・・事業広報
- ◎ 農家民宿班・・・農家民宿家庭の発掘（令和3年現在：10軒）
- ◎ 自然体験班・・・ほたるカフェ・しらやま冬ものがたり
ザリガニ釣り・コウノトリ見学ガイド ほか
- ◎ 販売促進班・・・白山さんち営業（農家レストラン・弁当等）

★「ディスカバー農山漁村の宝」優良事例選定 14地区 受賞

(平成29年北陸農政局)

★「水の里の旅コンテスト2020」奨励賞 受賞(令和2年度国土交通省)

魅力・資源の
意識付け

(株)ドマノマド

情報発信、事業連携

福井県（環境、観光、農林部局）

地域ブランディングをプロデュース

【情報発信】

●越前しらやま「SATOYAMAスタジオ」毎月第4日曜日

白山地区内の旬の情報を、ユーストリーム、ユーチューブにて配信

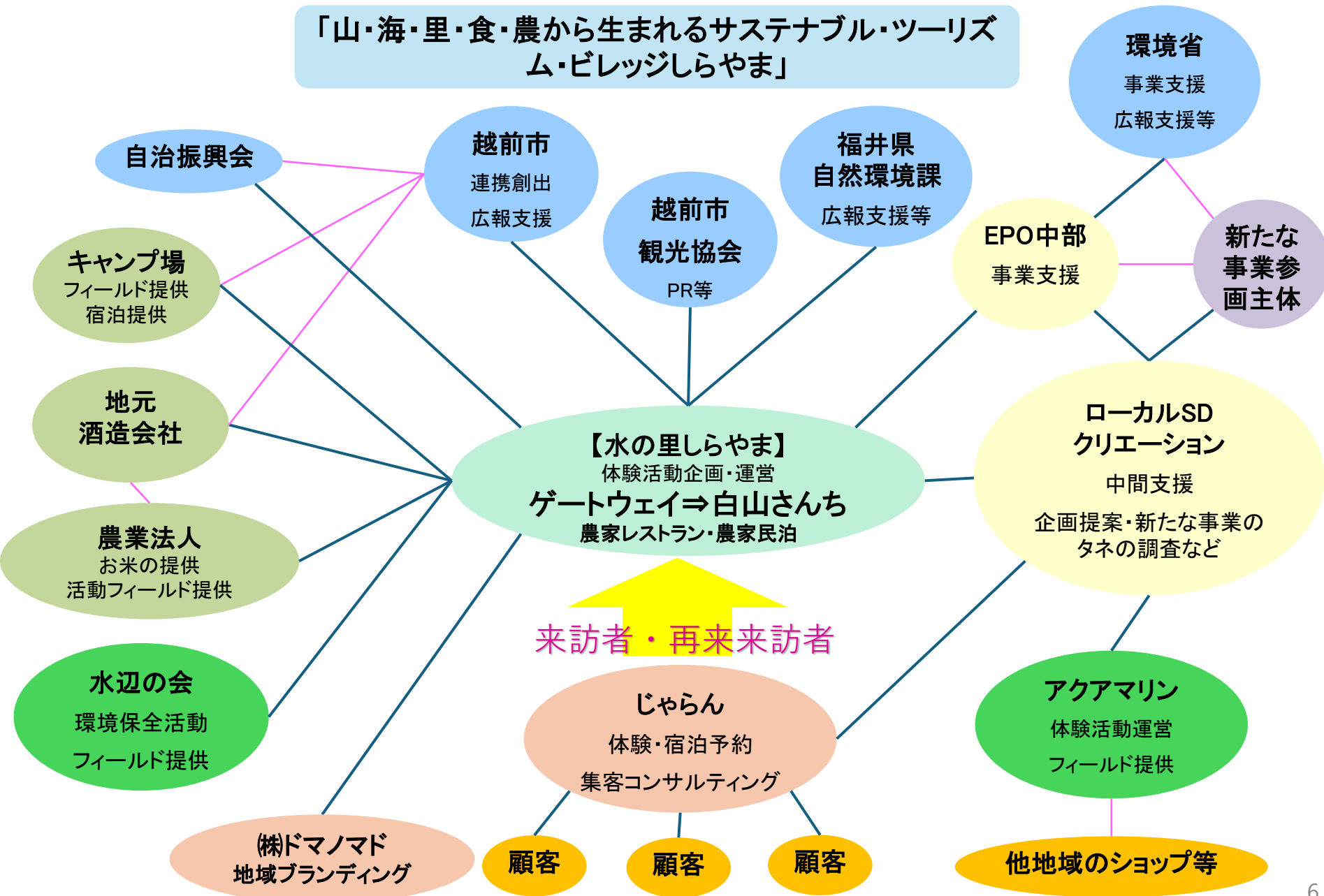
米プロジェクトチーム

越前しらやま米の販売

- 販路拡大活動(東京)
「青空市場」行幸マルシェ（丸の内 行幸地下通路）
「惣菜」 ※和食店（銀座8-7-2）
- しらやま米PR用シール・タグ・パンフレット製作
- しらやま米30㌦米袋製作検討中

“地域プラットフォーム”のイメージ

「山・海・里・食・農から生まれるサステナブル・ツーリズム・ビレッジしらやま」



ローカルSDGs 事業の詳細

あらすじ		
サイクリングやボタリングの周遊コースを企画し、PRすることでサイクリストをターゲットにこれまで企画・開発してきた、体験プログラムのコンテンツ（アウトドアクッキングや竹ぼうき及び竹漁礁づくりなど）を売り込み、地域を訪れる訪問者の増加につなげる。		
ストーリー		
これまで当事業では、里山や里海の保全の両立した竹漁礁づくりやフードロス削減につなげるため出荷期間終了後のスイカの収穫体験など地域資源を活用した体験コンテンツを企画・運営してきた。しかし、昨年3月に北陸新幹線が延伸開業したものの、当該地域は新幹線駅から20kmほど離れており、他地域からの来訪者の2次交通の確保が課題であった。そこで、当該地域に2次交通の必要性が比較的低いロードバイクやクロスバイクで地域をめぐる輪行で訪れるサイクリストをターゲットに地域の周遊コースを企画し積極的にPRすることで、宿泊や体験プログラムと組み合わせ、地域を訪れる訪問者の増加につなげる。		
事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	里地里山・里海の保全を楽しみながら体験できる活動を提供し、収益化することで広域的な環境保全や体験交流活動を活性化することで多くの人が訪れる地域。	・ 体験コンテンツやサイクリングコースをどのように周知していくか ・ サイクリングコースとして適当かどうかの検証が不十分 ・ 魅力あるサイクリングコースの設定
②課題	他地域から新幹線駅まで来た観光客を当該地域に移動させる2次交通の確保	
③なぜこの事業をやるのか（Why）	現状では2次交通の確保が十分にできる状態ではないことから、2次交通の必要性の低い顧客をターゲットに当該地域に来訪者を呼び込むため。	
④地域資源	里山・里海ののどかな風景、コウノトリの保全のストーリーとそれを活用したお米などの農産物、地域のブランド農産物スイカ、農家レストラン、農家民泊など	
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	各種アウトドア体験コンテンツ（クッキング・竹漁礁など）、農家レストランのランチ、農家民泊、農業体験、必要に応じてガイド	
⑥担い手（Who）	水の里しらやま、白山さんち、水辺の会、アクアマリン、農業法人	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	来訪者の増加⇒体験コンテンツの提供⇒顧客の反応の調査⇒体験コンテンツの改良⇒事業収益の増加⇒リピーター新規顧客の獲得⇒周辺地域への来訪者増加⇒参加者の旅館等への宿泊⇒里山及び里海の保全や地域資源の活用	・ プロのサイクリストやサイクリングコースに関するポータルサイト ・ サイクルショップ
⑧事業で生じる成果	里山資源のワイズユース、流域連携保全構築、里山生態系や水産資源の保全、観光産業の活性化、交流人口増加における送迎等の2次交通確保の課題に関するモデル事例	

3カ年状態目標

■ 2026年度末の状態目標

- ゲートウェイやハブとなる中核施設拡充整備
- 関係及び連携団体の拡大
- 事業の検討と見直し

■ 2025年度末の状態目標

- 譲歩発信体制の構築と強化（HP及びSNS立ち上げなど）
- 交流及び関係人口の増加を目指すコンテンツ企画
- 地域ブランドプロモーションツール作成支援

■ 2024年度末の状態目標と振り返り

- 体験コンテンツの企画運営
竹のランプシェードづくり、蔓まくりスイカ収穫体験など新たなコンテンツの企画・運営
- 市中心部や新幹線駅からの二次交通の検討
サイクリングコースの企画と検討、情報発信
- 地域ブランディングプランの策定
地域ブランディングに関するターゲットやタグラインの決定に関する側面支援

中間支援主体のありたい姿

■ 中間支援主体としての獲得目標

【新たなつながりの拡充】

新たな関係主体の巻き込みとニーズの明確化（特に地域外から当該地域に訪れる人など）

【地域の魅力に関する情報発信能力向上】

新たな関係主体と連携した情報発信の支援能力向上

多様な媒体に発信を行うため地域の情報量を増やし多方面へのPR

■ 中間支援主体としての本事業終了後の地域づくりへの貢献

- 活動団体の取り組みを通じ活動を持続的に行っていく為、周辺地域において多方面の連携を構築できるようにする。
- また、「この地域に行ってみたい」と思える核となるコンテンツづくりを活動団体と進め、ハブとなる施設（民泊と農家レストラン）を中心に運営することにより関係・交流人口の増加に貢献する。
- 地域外の人たちからのニーズや地域資源の魅力を聞ける場の設置と情報発信の支援の実施。

中間支援主体の支援・取組計画

■ 中間支援主体の1年間の支援目標

【新たなつながりの拡充】

- 活動団体が新たなコンテンツを企画・運営していくため、新たな関係主体の巻き込みと顧客ニーズの明確化（特に地域外）を行う。
- 活動団体が里山と里海という地域の最も売りとなる資源を活用しコンテンツを企画・運営する為の仕組みの整備

【地域の魅力に関する情報発信能力向上】

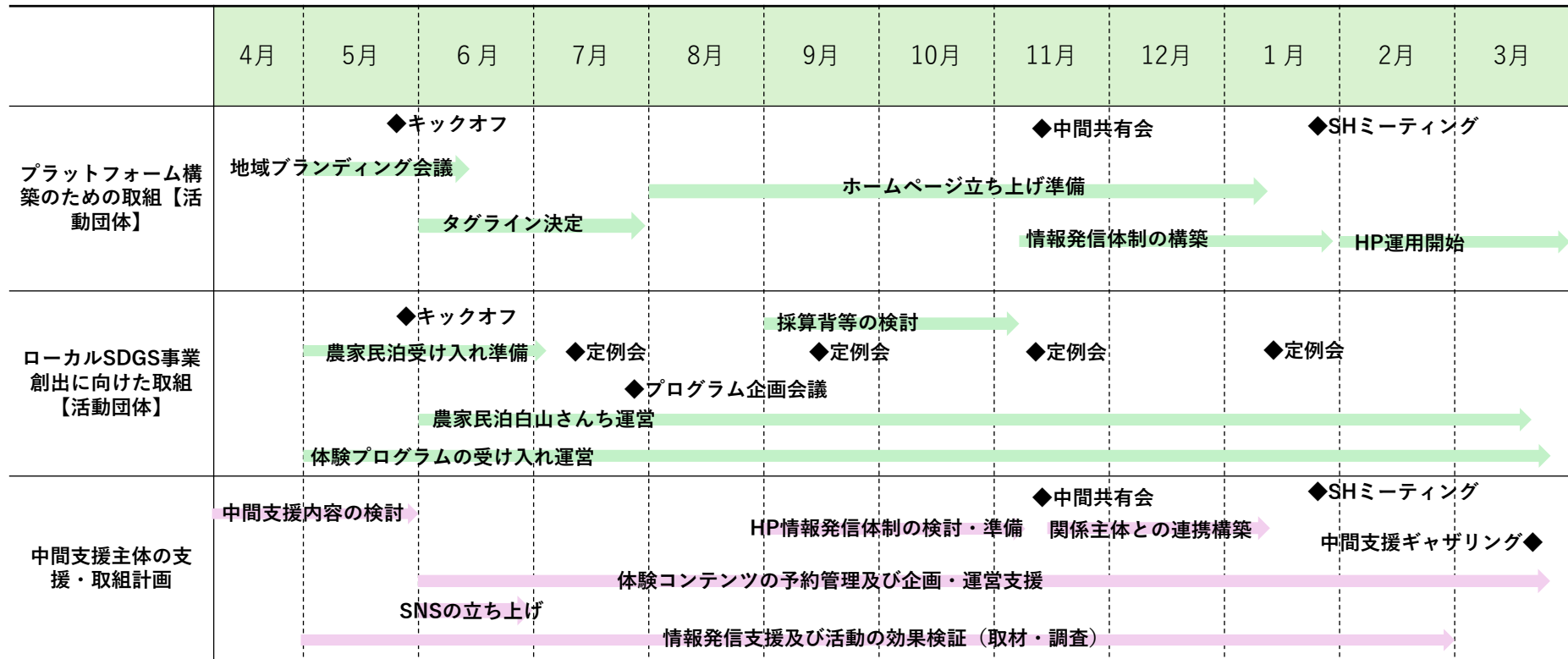
- 地域ブランディングを委託しているドマノマドや関係団体と連携した情報発信の支援
- 既存のSNSなどの媒体を用いた継続的な情報発信と取組みの効果の検証なども含めた積極的なPR活動

■ 支援計画

	活動団体の取組における現状と課題 (見立て)	課題を解決するために必要と考える手段 (打ち手)
①	活動団体にホームページなどの情報発信の媒体がなく、情報発信体制が十分に構築されていない為、外部からのアクセスが難しい。	ホームページの運営管理体制の構築とSNS（インスタ、FBを想定）の立ち上げと管理・運営。
②	担当者の分担や役割の明確化そして体験コンテンツに対応できる人材育成が必要。	SHミーティングや研修会などを活用し学ぶ機会の提供や新たな関係主体との連携構築。
③	地域外の人滞り及び交流する施設やコンテンツの予約体制が十分周知されていない為、多くの人々がアクセスできる予約管理体制の拡充が必要	予約サイトじゃらんを活用した体験コンテンツや農家民泊の予約体制の拡充。 積極的な情報発信による体験コンテンツや農家民泊への集客支援。

活動・支援スケジュール

■スケジュール



備考（補足説明など必要な場合は記載）